

改定京都府環境基本計画の 進捗評価について

令和7年10月29日（水）午前10時～正午
令和7年度第3回京都府環境審議会
総合政策部会

■ 今年度の審議スケジュール（再掲）

2

審議会	開催日	審議内容等	参 考
部会①	令和7年5月9日	・ 改定基本計画の概要案提示	⇒ 6月府議会 概要報告
部会②	令和7年7月29日	・ 改定基本計画の中間案提示	⇒ 9月府議会 中間案報告 ⇒ 10月 パブコメ
部会③	令和7年10月29日	・ 改定基本計画の答申案提示 ・ 現行基本計画の進捗状況について ・ 改定基本計画の進捗状況評価について	⇒ 12月府議会 最終案の提案
部会④	令和8年2月頃	・ 改定基本計画の進捗状況評価について	

本日の審議

改定後の環境基本計画の進捗状況の点検等については、これまで同様、第 7 章に以下のとおり記載。

改定後の環境基本計画（進捗状況の点検等に係る記載 抜粋）

- この計画に基づく施策の進捗状況の点検・評価に当たっては、それぞれの分野の個別計画等において、施策・取組の達成状況を示す指標を設けるとともに、可能な限り数値目標を掲げ、定期的に進捗状況を点検します。
- また、その点検結果や各施策の実施状況、府民の意識調査等も参照しながら、課題等を整理して総合的に評価を行い、その評価の結果については京都府環境審議会で検証します。
- また、点検・評価の実施結果等については、環境白書やホームページ等を通じて広く公表します。

これまでの総合政策部会での審議過程で出た課題等

- 府民向けアンケートの実施結果では、
 - 現行計画の進捗状況について**事務局が実施済み（○）と評価する取組**に対して、取組が進んでいないとの回答やその理由の自由記述が多かったことから、**府民意識との乖離があると推測**される。
 - また、**府民に関心をもってもらうため施策実施後の効果共有は重要との回答**があった。
- ウェルビーイングの向上を目標とするのであればその進捗をはかる指標が必要との審議会意見があった。

課題① 府民にとって、わかりやすい評価方法を検討することが必要

課題② 「ウェルビーイング＝府民が幸せを実感できる状態」が向上しているかどうか、府民の意識を確認していくことが必要

- ✓ウェルビーイングの向上を目標として掲げるのであれば、進捗状況をどのように評価していくのか考えていくべき。
- ✓個別計画を所管する各部会で具体的な指標に基づき評価し、その結果を総合政策部会に報告するという流れについて、賛成する(各部会長より回答)
- ✓ウェルビーイングの評価と考えると難しいが、視点を變えて逆にウェルビーイングではない状態かを評価方法としても良いかもしれない。

■ 京都府環境基本計画の評価枠組み(提案)

＜京都府環境基本計画に掲げる将来像実現のための基本的な考え方＞

環境基本計画に掲げる京都府の環境施策の推進を通じ、環境・経済・社会の三側面を統合的に向上させ、「ウェルビーイング＝府民が幸せを実感できる状態」をはぐくみ、またそれにより環境・経済・社会の好循環をはかっていく



京都府として環境施策を推進した施策の成果は、その施策の進捗状況だけでなく、府民の生活実感や幸福度につながったかを検証していくことが必要



以下の2軸で、年に1回進捗状況を点検・評価してはどうか。

① 京都府の環境施策の推進状況の評価

- ・ 従来から実施してきた府民意識調査・施策の実施状況調査による評価
- ・ 各部会での分野ごとの取組状況評価

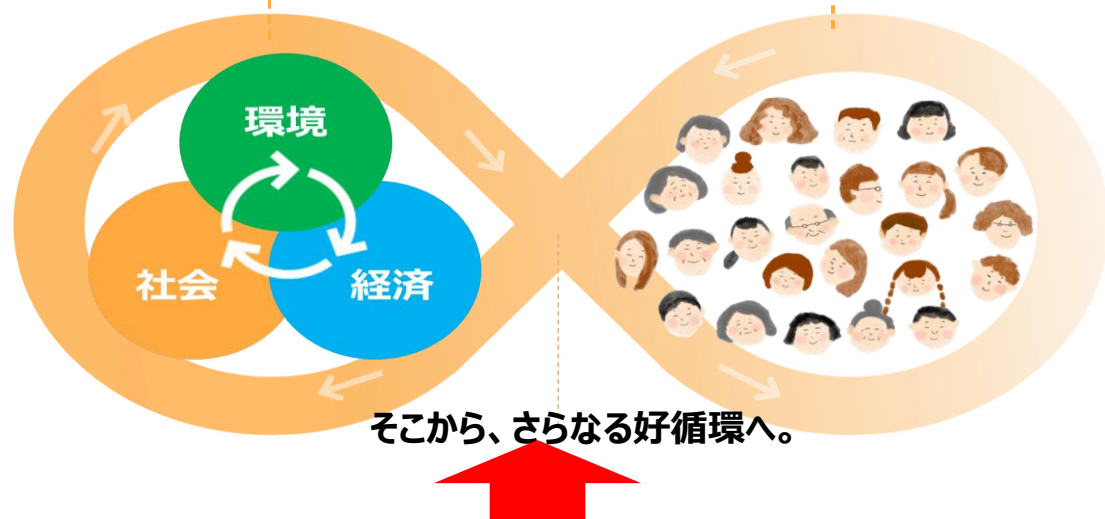
② 「ウェルビーイング＝府民が幸せを実感できる状態」を評価

- ・ デジタル庁の幸福度調査（客観・主観評価）

②「ウェルビーイング＝府民が幸せを実感できる状態」向上の進捗状況

環境・経済・社会の好循環が、

府民のウェルビーイングにつながり、



そこから、さらなる好循環へ。

- **デジタル庁のWell-Being指標**を活用して客観的指標と主観的指標により評価



①京都府の環境施策の進捗状況

第5章 分野横断的施策の展開方向

第6章 環境課題の分野ごとの重点取組の推進（2040年目途）

①脱炭素社会と持続可能な経済成長の同時実現に向けた取組の加速化 徹底した省エネの推進、再エネの主力電源化 フロン対策の推進 温室効果ガス吸収源対策・施策 ②循環型社会を目指した循環経済への移行の促進 3R・資源循環の促進、消費者の意識啓発、プラスチックごみの削減、食品ロスの発生抑制、環境保全型農業の推進、海岸漂着物対策	京都府の地域特性に応じた取組 ③安心・安全な暮らしを支える生活環境の保全と向上 環境モニタリングと情報発信、環境アセスメント、有害化学物質等対策、気候変動適応策、災害時の再エネ導入 災害廃棄物対策、不法投棄の未然防止 ④自然と生活・文化が共生する地域社会の継承 多様な生態系の保全、里地・里山の再生 豊かな農林水産資源の保全・利活用 生物多様性の知見の集積と人材育成、外来生物対策
--	---

- 第5章について評価
府民意識調査と京都府の**施策の取組状況調査**により評価
- +
- 第6章について評価
個別部会における進捗状況評価結果により評価

■ 評価方法（全体）

- 府民にとっても、評価結果がわかりやすいようそれぞれの評価結果を点数化（見える化）
- ①京都府の環境施策の進捗状況と②「ウェルビーイング＝府民が幸せを実感できる状態」向上の進捗状況とで 1 : 1 の重みづけで配点
- ①と②をそれぞれ毎年点検し、推移をモニタリング

①京都府の環境施策の進捗状況

第5章評価

- 府民意識調査
- 施策の取組状況調査

100点

第6章評価

- 個別部会における進捗状況評価結果

100点

②「ウェルビーイング＝府民が幸せを実感できる状態」向上の進捗状況

客観的評価

- デジタル庁Well-Being指標（客観データ）にて評価

100点

主観的評価

- デジタル庁Well-Being指標（主観データ）にて評価

100点

■ 評価方法（①京都府の環境施策の進捗状況）

第5章を評価

環境分野以外の課題も視野に入れ、複数分野の課題を統合的に解決していくことを目指し、分野横断的な施策の展開方向を提示

1. 環境だけでなく他分野も含め京都府の関連施策の実施状況を調査
2. 府民意識調査により、京都府の環境施策を享受する府民がどのように感じているかを調査

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合

70～100% ➡ ◎

40～70%未満 ➡ ○

0～40%未満 ➡ △



第6章を評価

第5章の分野横断的施策の展開方向を踏まえて取り組む、あるいはそれらを支える基本となる環境施策について、分野ごとに提示

1. 各環境分野の個別計画等において、施策・取組の達成状況を示す指標を設け、個別部会において進捗状況を点検

各部会で課題等を審議した上で総合政策部会へ毎年報告

（◎（順調）・○（概ね順調）・△（遅れている）で報告）

評価結果を点数化(見える化)

<評価結果の配点案>

※

			◎	○	△
第 5 章の 評価	総合政策 部会	施策の取組状 況調査	50点	32点	16点
		府民意識調査	50点	32点	16点
			100点		
第 6 章の 評価	脱炭素社会推進部会		25点	16点	8点
	廃棄物・循環型社会形成 部会		25点	16点	8点
	環境管理部会		25点	16点	8点
	自然・鳥獣保護部会		25点	16点	8点
		100点			

府民250万通りのウェルビーイングが向上したかを測っていくためには、そこにつながる経済・社会の好循環が進んでいるかも含め、**多様な要素の指標を用いて、継続的・長期的にモニタリングしていくことが必要**

多様な客観的指標と主観的指標を用いて継続的に調査を行っている**デジタル庁のWell-Being指標を活用**して評価

- ✓ 客観性：国が整備した統一指標で、他地域と比較して京都府の状況を客観的に評価することが可能。
- ✓ データの入手性：多くのKPIがオープンデータとして提供されており、定期的に更新され、継続的・長期的なモニタリングが可能。

評価結果を点数化(見える化)

■ 評価方法（②ウェルビーイング 向上の進捗状況）

デジタル庁のWell-Being指標

- 地域幸福度(Well-Being)指標とは、客観指標と主観指標のデータをバランスよく活用し、市民の「暮らしやすさ」と「幸福感（Well-being）」を指標で数値化・可視化したもの
- 地域における幸福度・生活満足度を計る4つの設問と、3つの因子群(“生活環境”、“地域の人間関係”、“自分らしい生き方”)から構成され、因子群は合計24のカテゴリーに細分化。
- 24のカテゴリー毎に、主観指標はアンケート設問、客観指標はKPIを設定。
- 主観指標・客観指標ともに、データを偏差値化して公表。



京都府環境基本計画の進捗状況評価であることから、「環境」に関連するものに限って指標を使用し、評価

（環境以外の社会・経済も含めた総合的な傾向を参考値として提示。環境分野の改善が他分野（健康、教育など）に与える波及効果を補足的に検討する材料とする。）

カテゴリー名称		
生活環境(16)		地域の人間関係(2)
<都市環境>	デジタル生活	地域とのつながり
医療・福祉	公共空間	多様性と寛容性
買物・飲食	都市景観	自分らしい生き方(6)
住宅環境	事故・犯罪	自己効力感
移動・交通	<自然環境>	健康状態
遊び・娯楽	自然景観	文化・芸術
子育て	自然の恵み	教育機会の豊かさ
初等・中等教育	環境共生	雇用・所得
地域行政	自然災害	事業創造

生活環境（都市環境12因子+自然環境4因子）

医療・福祉

- 特定健康診断受診率
- スポーツ行動者率
- 喫煙率(-)
- 人口あたり生活習慣病受療者数(-)
- 人口あたり気分障害（うつ等）受療者数(-)
- 可住地面積あたり医療施設数
- 人口あたり医療施設数
- 人口あたり産科・産婦人科医師数
- 人口あたり児童福祉施設数
- 人口あたり障害者支援施設数
- 可住地面積あたり介護施設数
- 人口あたり介護施設数
- 人口あたりホームヘルパー数

買物・飲食

- 可住地面積あたり小売店舗数
- 人口あたり小売店舗数
- 可住地面積あたりコンビニエンスストア数
- 人口あたりコンビニエンスストア数

住宅環境

- 平均価格(住宅地)(-)
- 一戸建の持ち家の割合

移動・交通

- 可住地面積あたり駅・バス停数
- 人口あたり駅・バス停数
- 職場までの平均通勤時間(-)
- 道路整備率

遊び・娯楽

- 余暇時間
- 教養・娯楽サービス支出
- 可住地面積あたり映画館数

子育て

- 保育所まで1km未満の住宅割合
- 可住地面積あたり地域子育て支援拠点箇所数
- 学童保育設置率
- 歳出総額における教育費の構成比
- 人口あたり待機児童数 (-)
- 合計特殊出生率

初等・中等教育

- 可住地面積あたり小学校数
- 可住地面積あたり中学校数
- 可住地面積あたり高等学校数
- 施設あたり小学生数 (-)
- 施設あたり中学生数 (-)
- 施設あたり高校生数 (-)
- 教員一人あたりの児童生徒数(-)
- 遠隔教育実施率
- 小中学生の自己肯定感
- 小中学生の自ら学ぶ態度
- 自分の考えを深める学生
- 将来に目標を持つ学生
- 子どものチャレンジ率
- 進んで助ける学生
- 子供の体力・運動能力水準以上
- 学力水準
- 不登校児童数(-)

地域行政

- 人口あたり図書館帯出者数
- 人口あたり博物館入館者数
- 人口あたり体育施設利用者数
- 地域財政指数

デジタル生活

- 自治体DX指数
- デジタル政策指数
- デジタル生活指数

公共空間

- 可住地面積あたり都市公園数
- 人口あたり都市公園数
- 可住地面積あたり市民農園面積
- ウォーカブル指数

都市景観

- 都市景観指数

事故・犯罪

- 人口あたり交通事故件数 (-)
- 人口あたり刑法犯認知件数 (-)

自然景観

- 自然景観指数

自然の恵み

- 食料生産ポテンシャル
- 水供給ポテンシャル
- 木材供給ポテンシャル
- 炭素吸収量
- 蒸発散量
- 地下水涵養量
- 土壌流出防止量
- 窒素除去量
- リン酸除去量

自然の恵み

- NO2吸収量
- SO2吸収量
- 洪水調整量
- 表層崩壊からの安全率
- 緑地へのアクセス度
- 水域へのアクセス度
- オートキャンプ場への立地

環境共生

- 公害苦情件数(典型7公害)
- 人口あたり再エネ発電量
- 人口あたりエネルギー消費量(-)
- 人口あたりゴミ排出量
- 食料自給率

自然災害

- 外水氾濫危険度
- 高潮危険度
- 土砂災害危険度
- 地震動危険度
- 津波危険度
- ハード対策
- 避難・救助
- 要配慮者支援
- 防災教育
- 防災まちづくり
- 情報・デジタル防災

33項目

地域の人間関係 (2因子)

地域とのつながり

- 人口あたり自殺者数 (-)
- 高齢単身世帯の割合 (-)
- 人口あたりNPOの数
- ボランティア行動者率
- 祭り開催数
- 関係人口創出活動指数

多様性と寛容性

- 管理職職員における女性の割合 (官民間問わず)
- 女性の労働力人口比率
- 家事の男女負担割合 (-)
- 男女の賃金格差 (-)
- 障害者雇用率
- 人口あたり外国人人口
- 留学生数
- 多様性政策指数

自分らしい生き方 (6因子)

自己効力感

- 首長選挙投票率
- 都道府県議会投票率

健康状態

- 健康寿命(平均自立期間)(男性)
- 健康寿命(平均自立期間)(女性)

文化・芸術

- 芸術家・著述家等の割合
- 国宝・重要文化財 (建造物) の数
- 日本遺産の数

教育機会の豊かさ

- 大卒・院卒者の割合
- 可住地面積あたり大学・短期大学の数
- 可住地面積あたり国立・私立中高一貫校数
- 大学進学率
- 語学教室にかかる金額
- 社会教育費
- 人口あたり生涯学習講座数
- 人口あたり生涯学習講座受講者数
- 人口あたり青少年教育施設利用者数
- 人口あたり女性教育施設利用者数

雇用・所得

- 完全失業率 (-)
- 若年層完全失業率 (-)
- 正規雇用者比率
- 高齢者有業率
- 創業比率
- 人口あたり農業産出額
- 人口あたり旅行者数・宿泊者数
- 有効求人倍率
- インターンシップ実施率
- 人口あたり大卒者進路未定者数
- 製造業労働生産性
- 本社機能流出・流入数
- 納税者あたり課税対象所得
- 可処分所得
- 人口あたり生活保護受給者数 (-)
- 高齢世帯の相対的貧困率
- 労働時間

事業創造

- クリエイティブ産業事業所の構成比
- 新規設立法人の割合
- 従業者数あたりコワーキングスペースの数
- 大学発ベンチャー企業数
- 特許等出願件数

■ 評価方法（②ウェルビーイング 向上の進捗状況）

地域における幸福度・生活満足度（4）

4 問

- 現在、あなたはどの程度幸せですか？
- 現在、あなたの町内（集落）の人々は、大体において、どれくらい幸せだと思いますか？

- 現在、あなたの住んでいる地域の暮らしにどの程度満足していますか。
- 自分だけでなく、身近な周りの人も楽しい気持ちでいると思う

生活環境（16）

医療・福祉（2）

- 医療機関が充実している
- 介護・福祉施設のサービスが受けやすい

買物・飲食（2）

- 日常の買い物に全く不便がない
- 飲食を楽しめる場所が充実している

住宅環境（3）

- 自宅には、心地よい居場所がある
- 【逆】自宅の近辺では、騒音に悩まされている
- 適度な費用で住居を確保できる

移動・交通（1）

- 公共交通機関で好きな時に好きなところへ移動ができる

遊び・娯楽（1）

- 楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある

子育て（2）

- 子育て支援・補助が手厚い
- 子どもたちがいきいきと暮らせる

初等・中等教育（2）

- 教育環境（小中高校）が整っている
- 通学しやすい場所に学校がある

地域行政（2）

- 地域の行政は、地域のことを真剣に考えている
- 公共施設は使い勝手良く便利である

デジタル生活（2）

- 行政サービスのデジタル化が進んでいる
- 仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい

公共空間（2）

- 地域の雰囲気は、自分にとって心地よい
- まちなか、公園、川沿い等で、心地よく歩ける場所がある

都市景観（1）

- 自慢できる都市景観がある

事故・犯罪（2）

- 防犯対策（交番・街灯・防犯カメラ・住民の見守り等）が整っており、治安がよい
- 歩道や信号が整備されていて安心である

自然景観（1）

- 自慢できる自然景観がある

自然の恵み（2）

- 身近に自然を感じることができる
- 暮らしている地域の空気や水は澄んでいてきれいだと感じる

環境共生（1）

- リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組みが盛んである

自然災害（1）

- 暮らしている地域では、防災対策がしっかりしている。

5 問

地域の人間関係（2）

地域とのつながり（5）

- 私は同じ町内に住む人たちを信頼している
- 地域活動（自治会・地域行事・防災活動等）への市民参加が盛んである
- 困ったときに相談できる人が身近にいる
- 町内の人が困っていたら手助けす
- このまちに愛着を持っている

多様性と寛容性（5）

- 町内にはどんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある
- 私は見知らぬ他者であっても信頼する
- 私は、町内（集落）の人が自分をどう思っているかが気になる
- 女性が活躍しやすい
- 若者が活躍しやすい

自分らしい生き方（6）

自己効力感（1）

- 自分のことを好ましく感じる

健康状態（2）

- 身体的に健康な状態である
- 精神的に健康な状態である

文化・芸術（2）

- 文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい
- 将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい

教育機会の豊かさ（1）

- 学びたいことを学べる機会がある

雇用・所得（2）

- やりたい仕事を見つけやすい
- 適切な収入を得るための機会がある

事業創造（1）

- 新たなことに挑戦・成長するための機会がある

■ 評価方法（②ウェルビーイング 向上の進捗状況）

客観的評価

- デジタル庁が公表している環境、経済、社会の状況に関する多様な指標（客観データ）により、京都府が全国の他自治体と比較してどのような状況にあるかを評価
- 偏差値(※) の平均により評価。

※ 人口10万人以上の自治体の数値をベースとし以下の計算式によ

$$(\text{偏差値}) = \pm \frac{(\text{当該自治体の数値} - \text{平均値})}{(\text{標準偏差})} \times 10 + 50$$

- ① 33項目それぞれの偏差値を合算し平均値を算出（＝総合偏差値）
- ② 評価点（100点満点）に変換



主観的評価

- デジタル庁が公表している府民へのアンケート調査結果（主観データ）により府民の生活実感について評価。
- 幸福度・生活満足度、生活環境、地域の人間関係、自分らしい生き方に関する全50問のうち、環境に関連する9問への回答の集計結果で評価

- ① 9問のアンケートの回答を集計（65点満点）
- ② 評価点（100点満点）に変換

評価結果を点数化(見える化)

客観的評価

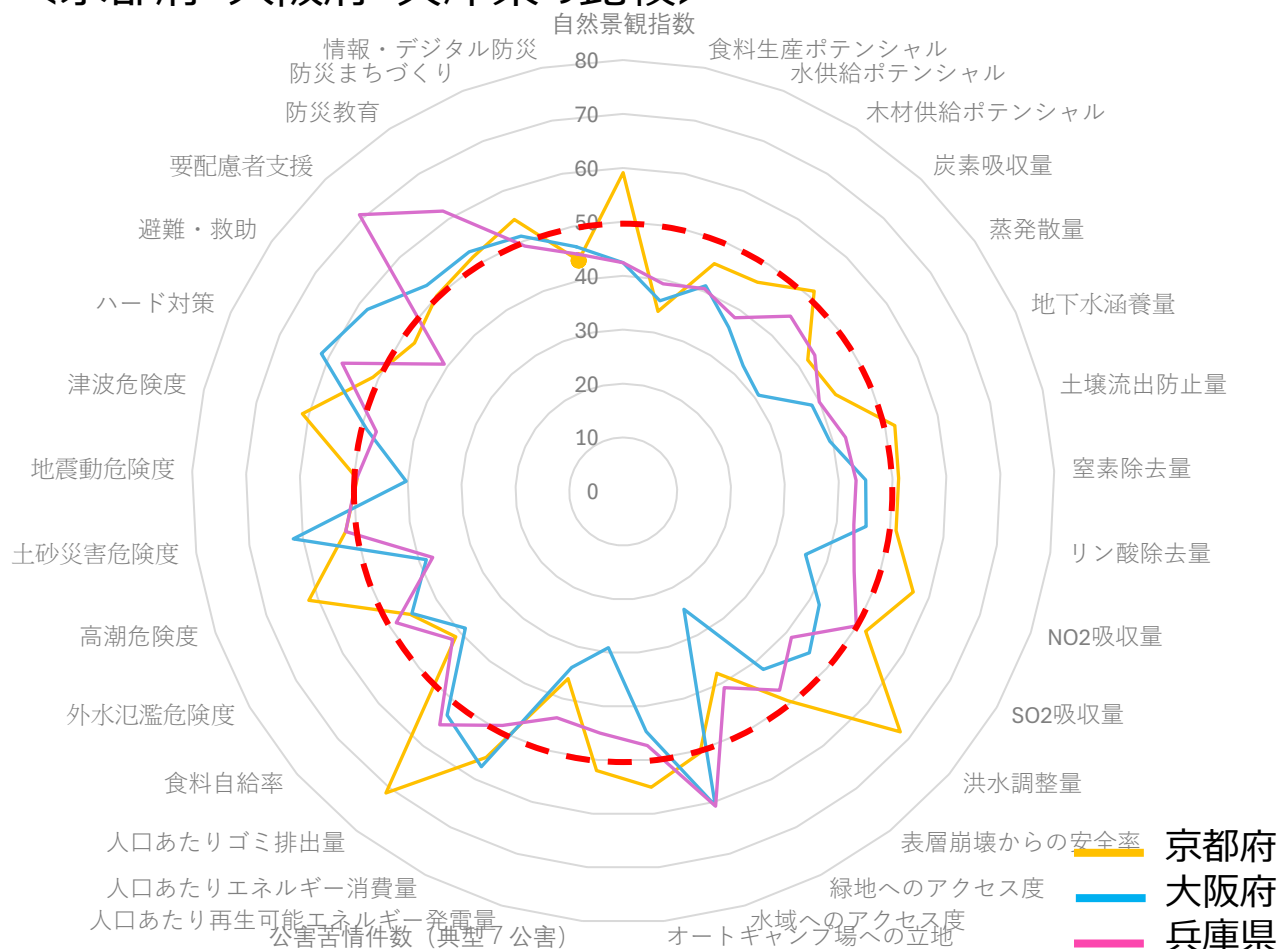
「環境」に関する指標33項目それぞれの
偏差値を合算し平均値を算出
（＝総合偏差値）

評価点＝(総合偏差値-30)×(100÷40)

※ 偏差値の範囲を30～70と仮定
（一般的な分布）

※ この40ポイントの幅を0～100点に変換

＜京都府・大阪府・兵庫県の比較＞



指標	京都府	大阪府	兵庫県
自然景観指数	59.1	42.4	42.4
食料生産ポテンシャル	34	36	39.2
水供給ポテンシャル	45.5	41.1	40.5
木材供給ポテンシャル	46.1	36.2	38.3
炭素吸収量	51.3	32.2	44.9
蒸発散量	42	30.8	43.6
地下水涵養量	43.3	38.5	40
土壌流出防止量	51.8	39.4	42.4
窒素除去量	51.1	45	43.2
リン酸除去量	51.1	45.5	43.2
NO2吸収量	56.9	35.8	45.3
SO2吸収量	51.9	42	49.9
洪水調整量	68	45.7	41.3
表層崩壊からの安全率	49.4	42	46.9
緑地へのアクセス度	37.9	24.6	40.9
水域へのアクセス度	50.5	60.7	60.8
オートキャンプ場への立地	55.1	44.7	47.3
公害苦情件数（典型7公害）	52	29.1	45
人口あたり再生可能エネルギー発電量	36.2	34	43.7
人口あたりエネルギー消費量	55.5	57.4	48.8
人口あたりゴミ排出量	71.1	52.8	55
食料自給率	41.1	38.7	41.9
外水氾濫危険度	45.6	45.2	48.6
高潮危険度	61.7	38.6	37.4
土砂災害危険度	52	61.8	52
地震動危険度	49.4	40.3	49.5
津波危険度	61.2	48.9	47.1
ハード対策	51	61.5	57.3
避難・救助	47.5	58.2	40.7
要配慮者支援	50.1	52.8	70.9
防災教育	51.6	52.8	61.8
防災まちづくり	54.3	51	49
情報・デジタル防災	43.6	46.2	44.8

主観的評価

9問アンケート 11件法（0～10点）×4問 } 合計 65点 ▶ 評価点 = (合計得点÷65) ×100
5件法（1～5点）×5問

● 11件法

(例)

「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点として、いずれかの数字を1つ選んでいただく

具体的設問：現在、あなたはどの程度幸せですか？ など

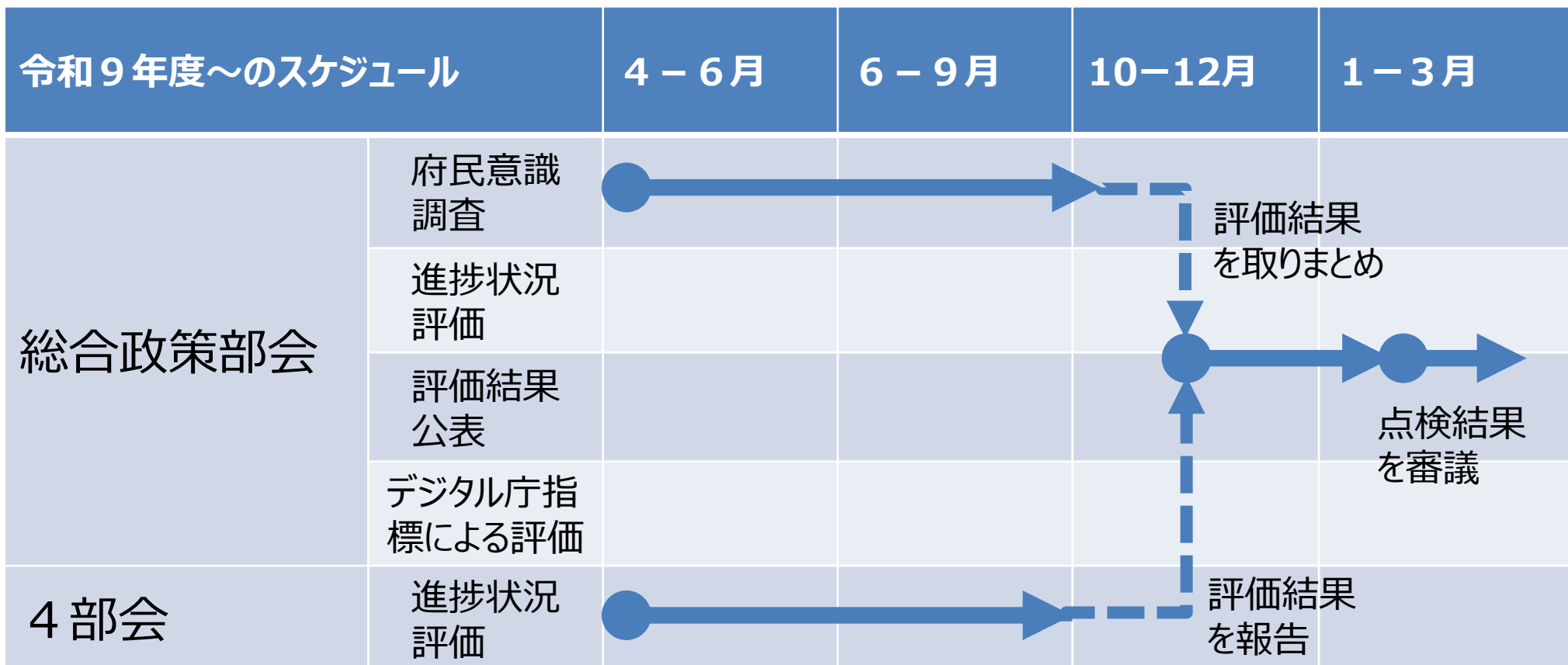
● 5件法

(例)

「非常にあてはまる」を5点、「ある程度あてはまる」を4点、「どちらとも言えない」を3点、「あまりあてはまらない」を2点、「全くあてはまらない」を1点として、選んでいただく

具体的設問：暮らしている地域は、医療機関が充実している？ など

■ 各部会における進捗状況の点検スケジュール



※ 令和8年度末までに、各部会において指標・ロードマップ等を検討。
 令和9年度に実施する改定後の環境基本計画の進捗状況評価から
 このスケジュールで実施。

環境基本計画に記載している指標例を中心に、各部会にてロードマップと合わせて検討していく

所管部会	指標名称
脱炭素社会推進部会	● 温室効果ガス排出量削減率 ● 府内総電力需要量に占める再エネ電力使用量の割合
循環型社会推進部会	● 1人1日当たり一般廃棄物排出量 ● 産業廃棄物最終処分量
環境管理部会	● 二酸化窒素（NO_2）の環境基準達成率 ● 微小粒子状物質（$\text{PM}_{2.5}$）の環境基準達成率
自然・鳥獣保護部会	● 条例に基づく生息地等保全地区の指定数 ● 京都府レッドデータブック掲載種の絶滅の危険度のランクを下げた種数

令和7年度

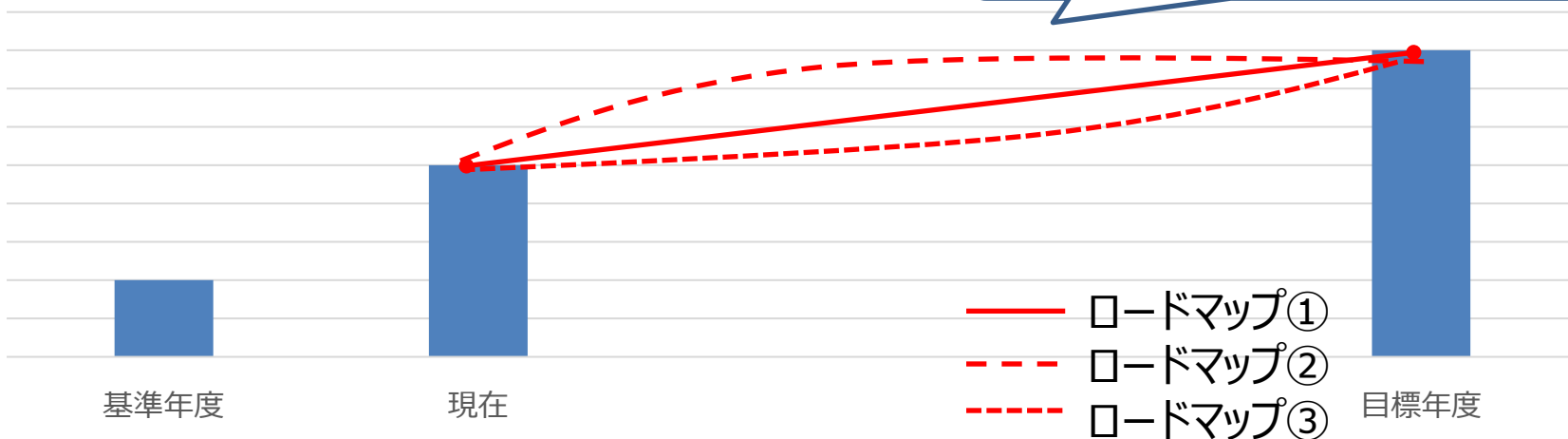
令和8年度

令和9年度

各部会において、進捗をはかっていくための指標・ロードマップを作成

(指標・ロードマップ例 (イメージ))

目標達成に向け、どのロードマップを描くのか？



どのようなロードマップで目標達成をするのか } を検討・決定
どのように進捗をはかっていくのか

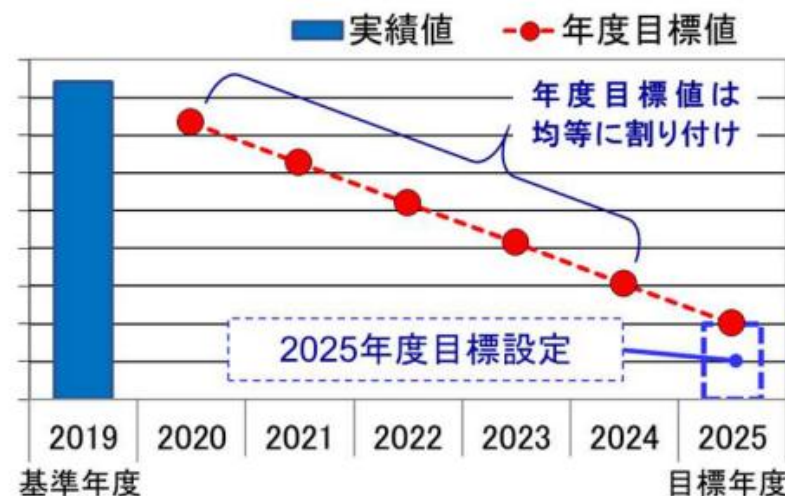
各部会において、進捗状況評価の運用開始

現行計画の概要 計画の進捗管理 - 環境指標 -

- ① 計画の進捗管理は分野ごとに設定した**環境指標**を用いて実施
- ② 環境指標には**客観的指標**と**主観的指標**があり、客観・主観の両面から評価

客観的指標 (12の指標)

- ・ 温室効果ガス総排出量削減率やごみ焼却量等の**実績値**で評価
- ・ 基準年度実績から目標値までを直線的に均等に割り付けて、年度目標値を設定 (右図)
- ・ 年度目標値に対する各年度の実績値の達成率に応じて5段階 (☆☆☆☆☆) で評価



主観的指標 (11の指標)

- ・ インターネットによる市民アンケート調査(1,000名)により**市民実感度**を把握
「省エネルギーや節電の取組が年々進んでいると感じるか。」など指標がアンケートの質問に設定されている。
- ・ 各指標(質問)に対する選択肢を5つ、選択肢ごとに配点※を設け、全回答から数値化 (市民実感度) し、5段階で評価

Q 環境保全や環境問題に対して関心がありますか? (令和4年2月調査)



※ そう感じる 2点、どちらかと言えばそう感じる 1点、
どちらかと言えばそう感じない -1点、そう感じない -2点、わからない 0点

■ 今年度の審議スケジュール（再掲）

23

審議会	開催日	審議内容等	参 考
部会①	令和7年5月9日	・ 改定基本計画の概要案提示	⇒ 6月府議会 概要報告
部会②	令和7年7月29日	・ 改定基本計画の中間案提示	⇒ 9月府議会 中間案報告 ⇒ 10月 パブコメ
部会③	令和7年10月29日	・ 改定基本計画の答申案提示 ・ 現行基本計画の進捗状況について ・ 改定基本計画の進捗状況評価について	⇒ 12月府議会 最終案の提案
部会④	令和8年2月頃	・ 改定基本計画の進捗状況評価について	

本日の審議